

「見えないだけ」「アイスプラネット」のツボ

* 「見えないだけ」について

国語の授業のスタートは、二年生も詩です。「見えないだけ」という詩は、じっくり読むと、はてしなく広がる、とても大きな世界がイメージできます。空の上や、海の底だけでなく、自分の心の中にも「ことばがはぐくんでいる」優しい世界が広がっているんですよ。そして、まだ出会えてない季節(未来)、これから出会う「新しい友だち」、今はまだ見えないだけなんです。だけど「確かに在る」んです。そんな新しい出会いを大切にしていきたいなあ、って詩ですね。みんな、そこまでイメージできたかな。でも、中には、もっと豊かな世界をイメージできた人もいるかもしれませんね。

「とても簡単なことだ。ものごとはね、心で見なくてはよく見えない。いちばんたいせつなことは、目に見えない」
(『星の王子さま』アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ(著)、河野万里子(訳)より)

『星の王子さま』の中の有名なフレーズですが、年齢を重ねるごとに、さまざまな場面で実感することでもあります。国語という教科も、実はもともと「目に見えない」(抽象的な)ことを追求する教科だな、と思う時もあります。そんな、目には見えないことが、実は大事なんですよ。そして、見えなくても、確かにそこに在るんですよ。「目には見えないけど、確かな力」＝「想像力」を大事にしながら授業をしていきたいです。(学校再開したら、がんばりましょうね。)

* 「アイスプラネット」について

「僕」と「ぐうちゃん」のお話。ちゃんと読めましたか？ワークのP 12・13を見ると、作者である椎名誠さんが、いかにいろいろな世界を見てきたかがよくわかります。このお話は小説ですが、椎名さんが、実際に経験したことを元にして描かれているそうです。椎名さん自身、おじさんと暮らしていた経験があり、もし自分が「おじさん」の立場だったら、という発想から書かれた作品だそうです。

みんなは、自分の将来について考えたことがあるでしょうか？自分の夢をしっかりとっている人もいるかもしれないけれど、なんとなく、上の学校に進学して、会社就職して、社会人になるのかな、とイメージしている人も多いかもかもしれません。でも実は、世界はもっと、ずっと、広くて、でかくて、いろいろあるんですよ。

「若いうちに勉強をたくさんして、いっぱい本を読んで、いっぱい『不思議アタマ』になって世界に出かけていくとおもしろいぞ。世界は、楽しいこと、悲しいこと、美しいことで満ち満ちている。誰もが一生懸命生きている。それこそありえないほどだ。それを自分の目で確かめてほしいんだ。」ちょっと長いかなあ、と思いましたが、「ぐうちゃん」の言葉を引用しました。それはそのまま、作者の、私たちにに向けたメッセージでもあります。まだまだ、私たちには知らない世界、知らないことがいっぱいあるし、人の生き方も、いろいろなのです。この話を読んで、そんなことにも気づけるとよいですね。(広い世界を見に行ける日を楽しみに、今は「想像の翼」を広げていきましょう。)